

「農業法人で培った技術で高収益栽培を目指す！！」



武本 侑也 (32 歳)
(伊予市)

Uターン

1 就農の動機・理由

大学在学中に祖父が専業農家であったことが影響し、「将来的には農業に携わりたい」という意思が芽生え始め、就職先として農業法人を選択。在職中、思いがけず新規試験事業である植物工場の管理担当となり、主に大玉トマトの養液栽培試験の管理に従事した。

その経験により技術的な知識を習得するなど独立自営の意思を固めることになった。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (2017年)	現在の経営 (2019年)	将来の経営 (2023年)
労働力	男 1 人(本人)	男 1.2 人 (本人・父) 女 0.1 人(母)	男 1.5 人 (本人・父) 女 0.5 人(母)
経営耕地	水田 53 a 畑 a 樹園地 a 計 53 a	水田 53 a 畑 a 樹園地 a 計 53 a	水田 53 a 畑 a 樹園地 a 計 53 a
経営内容	きゅうり (露地) 7 a 葉菜類 13 a 管理農地 33 a	ミニトマト (施設) 10 a レモン 6 a 葉菜類 37 a	ミニトマト (施設・養液) 10 a レモン 6 a 葉菜類 37 a

○農業用施設

A Pハウス 4 連棟 1,000 m²
倉庫 48 m²

○主要農業機械

耕運機 7.1ps 1 台
動力噴霧機 3.1ps 1 台
選果機 1 条ベルト 1 台
軽トラック 660cc 1 台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地

愛媛県伊予市

職歴

ベルグアース株式会社
(野菜苗生産販売事業)

就農研修歴

J A えひめ中央研修センター
就農年月 平成 29 年 6 月

(2) 就農時の思い

関東・東海地域の有力なトマト産地で実績のある養液栽培システム及び多収生産を可能にする環境制御装置 (環境モニタリング装置・炭酸ガス発生装置) を導入し、就農 5 年以内に 20 t /10a の生産量と 1,000 万円の販売額を目指したい。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

トマトの生産技術については法人就職時及びJA研修センターで習得しており、栽培技術面における心配はほとんどない。今後経験の積み上げにより一層の生産技術向上に努めたい。

(2) 資金の準備

目指す農業経営を実現させるために施設の導入が必要であり、ファーマーサポート事業等の助成事業や就農支援資金をフル活用している。

今後も栽培施設の充実を計画しており活用できる事業や資金は今後も活用していきたい。

(3) 農地・住宅の確保

農地についてはJA研修センター及び農業委員さんに相談し、農業者となれる最低限の農地を確保。住宅は実家で両親と3人で生活している。

(4) その他苦労したこと

就農当時、新規に農業経営を開始するため50aの農地取得が必須であり、借入れた53aの農地を管理しているが、ミニトマトの栽培に集中すると、その他の農地の管理が行き届かなくなる時もあり時間の確保に苦労している。

5 農業経営の特徴

ミニトマトの周年栽培が1,000㎡に99%の労働力を投入している労働集約型の経営である。

6 これからの夢

養液栽培システムと作業台車を導入し、栽培面・作業面共に安定性・持続性を高めていきたいです。

長期目標としては、自身が優良事例と

なり、情報発信することで、愛媛県内における果菜類の施設園芸振興に貢献したいと考えています。併せて、同様の新規就農事例を増やすため、就農要件の改善に繋がるよう働きかけていきたいです。愛媛県が施設園芸先進地の仲間入りをすることが私の夢です。

7 成功したキーポイント

就農3年目で成功しているとは言えないが計画より前進した経営に取り組んでいる。その要因として農業法人での数々の体験が大いに関与していると思う。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業経営には一定の収量が不可欠で、収量の確保には栽培技術が必要です。

「モノづくり」のビジョンを出来るだけ具体的に描くことが技術習得の一番の近道だと思います。

○ 指導機関からのひとこと

豊富な知識量と栽培技術力はピカイチであり、今後の経営手腕に注目したい人材です。期待しています。

執筆機関

中予地方局産業振興課伊予農業指導班
電話番号 089-982-0477



ミニトマト管理作業中